奄美大島における母子関係

寺　脇　　保（鹿児島大小児科）
木　場　道　子（　　〃　　）

母親が，子どもの成長過程に多大な影響を与えるという事は言うまでもない。
私どもは，古い日本の母子相互作用の原型が残されているかもしれないとの考えから，こしき島に引き続き，今回は，奄美大島の三地域において，小学校４年生から６年生までの児童２６６名およびその母親２４７名に対して，アンケート調査および田研式親子関係診断テストを行なったので，その結果を報告した。

奄美大島も核家族化が進んでおり，母親の有職率も高いが，紬という家内工業に従事している母親が多いためか，母乳栄養も全国平均に比べて高く，父親の協力を得て，育児のかたわら仕事を行なっていた。

田研式親子関係診断テストで客観的にみた結果も，鹿児島市内と比較すると，母子間のズレが少なく，円満な母子関係が築かれていた。

肢体不自由児施設入園児の母子関係

鹿大小児科は，今まで昔の日本の母子関係が残っているかもしれないという事で，南西諸島の母子相互作用について調べてきた。そこでは，母子関係が親密で，又自然に親しんで育った健康な子供像が浮んだ。そこで今回私達は，障害をもつ子供とその母親との相互関係をみる目的で，肢体不自由児施設やまびこ整肢学園に現在入園中の子供とその母親を対象として，アンケート形式で，対象児の妊娠時から現在までの母子関係を母親に問い，特に施設に預けられている子供と母親の関係を中心として，即ち入園に至る経緯と，現在の母子関係（普段の生活，面会日，外泊等）を中心として分析をすすめる予定である。